



太陽光パネルはどこに行くのか

2025年、ドイツで電力における再生可能エネルギーの割合は62%でした。太陽光発電は16.9%と、風力の31.5%に次いで多くなりました。2000年の再生可能エネルギー法で再エネを第一優先とすること、そして20年にわたる固定価格での買取制度が始まり、順調に増えてきました。20年過ぎると買取価格は下がりますが、2032年まで買い取ってもらえます。

ドイツでは冷蔵庫や洗濯機など電化製品はもちろん、自転車や家具など製造者責任で処分するので、処分場に持っていけば無料で回収されます。

同じく太陽光パネルも製造元や流通業者が処理します。しかし予想以上に長持ちしていて処分例が少なく、大量処分のしくみが確立されていません。リサイクル率80%が義務付けられていますが達成できず、大方は分解することなく粉砕されています。外国に持ち出される例も少なくありません。

そんな中ベルリンのソーラーマテリアル社は特許登録した熱機械的処理により、銀やシリコン、高品質ガラス、アルミニウム、銅、プラスチックなど原材料の98%を回収しています。さらに処理工場を建設し、いずれ欧州の約15%を担う予定です。

エコ研究所によると2030年まで毎年40万枚の太陽光パネルが廃棄される

とのこと。リサイクルは経済的にも環境的にも意義があり、新しいビジネスモデルのチャンスとなっています。

わたしはどこに行くのか

1996年にドイツにきて、ちょうど30年となりました。いろいろ感じるころがあります。例えば2011年廃止となった徴兵制が最近、復活のきざしを見せています。徴兵自体は義務ではありませんが、2008年以降に生まれた男子は18歳になると、徴兵への意思を問う質問票の回答と身体検査が必須となります。質問票に無回答の場合1000ユーロの罰金ですから、国がかなり本気で軍人を増やそうとしているのがわかります。

明の学校では政治学のクラスに軍の人が勧誘にきたそうです。明は2007年生まれなのでぎりぎりセーフ。戦争がどこまで広がるかわからない昨今、3ヶ月遅く生まれていれば徴兵に取られたかもしれません。

また先日、依存症の視察の通訳をしました。日本では麻薬使用は厳罰ですが、ドイツでは依存症は病気であり、治療すれば治るという認識なので処罰の対象ではありません。もともとどんな犯罪を犯しても、姓名は公表されず、下の名前と姓の最初のアルファベットのみ報道されます。それは殺人犯も同

じ。日本のように、報道されて一生まともな職に就けないということはなく、更生しやすくなっています。寛容さの表れであり、だからドイツは暮らしやすいのだと改めて感じました。

ごみかんとは2000年に、ハノーファーの万国博覧会他、環境問題の視察にいらした江川さんや吉崎さん、栗山さん、浦城さんの通訳をつとめたことと出会いました。翌2001年から、ドイツ特派員として書き始め、旧ごみっとなら数えて通算144回の連載となりました。終わりが来ると考えたことはつゆもなく、いつのまにか25年経っていました。

ごみかんはいろんな形で私の生活を豊かにしてくれました。原稿を通じて、定期的にドイツの生活を分かち合う人がいたのはかけがえのないことでした。また環境やエネルギーについて執筆や視察の依頼がくるようになり、夢だった本を出版することができました。

明は6月に高校を卒業し、いずれうちを出ていくでしょう。私もごみかんを卒業し、これからどうしようか、どこにいこうか考えています。

こうしてみなさんと最後までご一緒でき、とても光栄でした。これまで本当にありがとうございました。ドイツに来る際は、ぜひご連絡くださいね!

ごみかんドイツ特派員 田口理穂

AKIRAのご挨拶

ごみっと・SUNを読んでいるみなさん、田口フィリップ明です。

これまで18年間、僕の日常生活を見守ってくださりありがとうございます。このように自分からみなさんへのメッセージを書けるのは初めてで、とてもうれしいです。

今アビトゥーア(ドイツの高校の卒業試験)が近づいてきてるところです。この18年でここ数か月が一番早く過ぎた気がします。5か月前に成人し、今週(3月16-20日)で、学校に行くのも人生で最後です。そ



日本の武道をイメージして仮装しました

して運転免許の学科試験に合格しました。

2か月後は卒業試験もすべて終わっています。1年後は多分大学で勉強をしています。数か月で大きく状況が変わりやすい時期です。

ドイツの学校では卒業をきっかけにいろいろな文化や行事があります。そのひとつが「Mottowoche」(テーマウィーク)です。今週1週間、卒業前の生徒

たちみんな日替わりで仮装をします。「子供の頃のヒーロー、国と文化、タイムトラベル、生徒・先生入れ替わり、グループ仮装」とテーマは五つです。授業もさぼったりして、学年みんなで校庭やら校内で騒ぎます。ファッションショーをおこなったり、みんなでサッカーをしたり、学年クイズとか公園でピクニック、クラスメイトとの最後の時間を楽しみます。仮装のアイデア集めと作る作業がとても楽しいです。授業をさぼるのは禁止でも、先生は見ないふりをします。参加する先生もいます。

二つめの行事はアビの悪戯(いたづら)です。アビの試験が終わってからもほかの学年は授業があるので、卒業生が学校に戻って悪戯をします。紙吹雪をばらまいたり、音楽を大音量で流したり、ほかの授業の邪魔をしたり。

去年卒業した子たちは、机でピラミッドを廊下につくり、階段を通行止めにしていました。それに大きい泡を作る機械を借りて、校庭で泡合戦を開催しました。日本だととてもありえない文化です。学校をめちゃくちゃにしてももちろん悪戯をし終わったらすべて掃除して片付けます。でないとさすがに先生も許可をくれません。

三つ目の文化はプロムです。卒業式の夜に大きな会



場を借りて、大きなパーティーがあります。会場を借りるのにかかるお金は2万ユーロ(380万円)を超えることもよくあります。先生、生徒、親、そして友達と親せきが混ざり、みんなでアビトゥーアを祝うのです。スーツとかボールガウンをわざわざ買うのが標準で、きれいな恰好をします。

アビの試験は、選択した三つの専攻科目と二つの副科目の5教科を受けます。専攻科目は300分(5時間)、副科目は240分(4時間)書きます。特徴的なのは、自分で文章を書くことが多いことです。詩の解釈や政治・社会問題の分析、翻訳と、知識のみじゃなく考え方や考える力、そして問題解決の方法を確かめる試験です。

僕はアビを取ってからギャップイヤーを取り(すぐ大学に行かないで1年遅らせる)、世界を旅したいです。とくにヨーロッパは気軽に行き来できて、きれいなところが多いので楽しみです。

ごみかん会員のみなさん、明の成長記録をこれまで読んでいただきありがとうございました。これからもお元気にお過ごしください。



2016年9月の号から10年弱、隔月発行なので年に6枚、合計58枚のイ

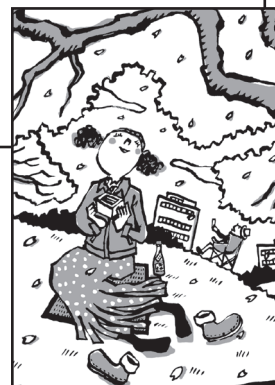
ラストを描かせていただきました。休むことなく続けられたのは、編集の真紀子さんとのやりとりが毎回楽しかったから。ぎりぎりまでお待たせしてしまったことも多々ありました。10年間ありがとうございました。

ごみと・SUNのウェブサイトのバックナンバーを紹介するページに、見やすく全ての表紙をアップしてくださっているので、この文章を描くにあたり懐かしく見ました。当初はなんとか記事の内容とリンクした表紙の絵にできたらと思って描いていましたが、ごみ問題にも絵にしやすいタイプの話とそうでないものがあったりして、なかなか記事に合わせて描くのは難し

く、次第に季節の絵の背景にごみ収集車が停まっていたりごみ箱があったりするような絵になっていきました。好きなように描いてくれれば良い、とおっしゃってくださっていて、なので本当に好きなように描かせていただいていたと思います。

10年前はまだ子どもが小さく子育て現役な毎日だったので、小さな子どもを連れた生活の描写がリアルで良いとか、筆跡をよく見ると2020年頃までは主線は筆と絵の具で描いていたっぽいとか(今はパソコンで描いています)、コロナ騒動の最中や、コロナから元の暮らしに戻りつつある感じや、戦争や、能登の地震などご時世も少しずつ反映されていて、文字通りライフワークになっていたんだと思います。

10年だもんなー、無くなると寂しいなー。本当に本当にありがとうございました!



コロナが始まった2020年3月の表紙イラスト(部分)

ヤスミチさんへ

ヤスミチさんは私の息子と同じ年。当時はまだ30代で、家事・育児をばりばりこなすアーティストと、最初はどうかやりとりしようか緊張しました。でもヤスミチさんはFacebookで仕事や生活の様子をまめに発信しているので、我が子よりもその生活ぶりがわかるようになりました。お願いしたイラストはどんなに忙しくても細部まで手を抜かない、そしてぎりぎりでも絶対に間に合わせる。これが編集する者にとってどれだけありがたいことか! これを読んでいる会員さん、ヤスミチさんのイラストのお仕事が生かせる場所があれば、ぜひ紹介していただきたいです。(いの)